

平成19年11月20日

各位

会社名 日本製麻株式会社
代表者名 取締役社長 中本 広太郎
(コード番号 3306 東証第2部)
問合せ先 取締役経理部長 池田 明穂
(TEL. 078 - 332 - 8251)

中間業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成19年5月23日の決算発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)の中間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期連結中間業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月23日発表)	3,450	100	74	35	0.95
今回修正予想(B)	3,593	87	63	19	0.52
増減額(B-A)	143	13	11	16	
増減率	4.1%	13.0%	14.9%	45.7%	
前期(平成19年3月期中間) 実績	3,672	146	113	55	1.51

2. 平成20年3月期個別中間業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月23日発表)	2,816	56	44	26	0.71
今回修正予想(B)	2,774	31	19	10	0.30
増減額(B-A)	42	25	25	16	
増減率	1.5%	44.6%	56.8%	61.5%	
前期(平成19年3月期中間) 実績	2,842	72	43	28	0.77

3. 理由

修正の主なものは、以下のとおりであります。

(1) 中間連結業績予想の修正理由

売上高は、マット事業のアジア向け車種の需要の増加などで増収となり、営業利益は、原油価格の高騰の影響により原材料価格が上昇しましたが収益は確保しました。また、海外子会社のタイ国通貨バーツ高による円換算により売上高および営業利益の増加となりましたが、修正の主な要因は個別での影響を受け中間連結業績予想の修正をいたします。

(2) 中間個別業績予想の修正理由

売上高は、マット事業、食品事業、水産事業では堅調に推移しましたが、産業資材事業における米麦用麻袋の需要の減少や輸出用合繊繊維の環境問題などにより売上が減少、およびホテル事業における婚礼の受注は少子化や多様化などにより計画を下回り減収となりました。

営業利益は、産業資材事業、ホテル事業の減収による影響と、食品事業における輸入商品のユーロ高、およびパスタ製品の原料小麦の高騰と税制改正による減価償却費の増加などでコスト高となり、販売価格への転嫁も市場での反応が厳しく価格修正が追いつかず大幅な減益となりました。その結果、前回の発表予想数値を下回る見込みとなりました。この影響により経常利益、当期純利益も修正いたします。

(3) 平成 20 年 3 月期個別・連結通期業績見込みについて

通期の業績予想については、中間決算発表(平成 19 年 11 月 22 日予定)時に公表する予定です。

以 上